Tottori University Hospital Center for Clinical Residency Program

鳥取大学医学部附属病院 研修センターだより

2023.3
42

contents

1P▶ TOPICS
指導医講習会　脳神経内科／徳田 直希

3P▶ 臨床研修修了式、優秀指導医賞・ベストレジデント賞授賞式

ベストレジデント
梅木 真奈、保手浜 裕之、宮石 昌典

5P▶ 活躍！先輩ドクター
小児科　山﨑 隼太郎

GOZZOで推しメシっ！
研修歯科医　阪本 舞、平田 真悠

6P▶ 医 局 探 訪
耳鼻咽喉科・頭頸部外科　矢間 敬章

鳥取大学医学部附属病院 卒後初期臨床研修における研修理念

将来、社会が求める最適な医療を、安全に配慮して提供できる優れた医療人となるために、

1. 医師としての基本的価値観（社会的使命、利他的態度、思いやり、自己向上心）を身につける。
2. 医学や医療に関する倫理原則を理解し行動する。
3. 日常診療で頻繁に遭遇する病態・疾患に対応できる基本的な診療能力を身につける。
4. 常に最新の医学知識の獲得に努めるとともに、科学的探究心を持ち、地域社会や国際社会、公衆衛生への貢献をめざす。
5. 他の医師や医療者と共に医療を行い、学び、互いに敬意をはらう姿勢を身につける。

指導医講習会を受講して　12月 17日・18日

脳神経内科　徳田　直希

ある日、指導医講習会を今度受講しますと先輩に報告しました。「大変だぞ、覚悟しとくんだぞ」と温かい言葉を賜りましたが、さすが先輩、その言葉にウソはありませんでした。

主には10人程度のグループワークで、指導するにあたって実際に困る・悩むこと、解決策とその優先順位づけ、実際のマニュアル作りなどを話し合いました。ひとりひとりの着眼点や重視する点が様々で、多くの意見を聞けたことが面白く、また個性があるが故の指導の難しさを体現しているな、とも感じました。受講はとても大変でしたが、正直思ったより有意義でした。より良い方向へと導いてくださった主催の先生方に感謝申し上げます。これを毎年やっておられるのでしょうから、そこにはもう尊敬しかありません。

受講の最後には、目指す目標をひとつだけ選んで挙げました。私の場合は「とりあえず褒める」。その練習として、講習会をヘトヘトで終えて帰宅した私は妻に、「いつもおいしい料理をありがとう」と普段言いもしないことを言ってみました。「え、なにどうしたの?」と訝しげながらも、そこには嬉しそうな笑顔がありました。指導医講習会、(意外と?)役に立つかもしれません。

今年度の臨床研修
マッチング結果について

医科・歯科ともに臨床研修マッチングに参加しました。今年度も(コロナウイルス感染症第6波・第7波の)影響を受け、病院見学の受け入れがままならない状況でしたが、マッチ者の実数は医科で17名(前年15)と微増、歯科はフルマッチ(定員5名に対し5名マッチ、前年3)でした。

また、鳥取県全体では昨年度40名だった医科のマッチ者は46名となり、県の総定員81名の50%を超え、回復傾向を見せています。

当センターとしましては、県内の研修医ならびに3年目で県内病院に勤務する医師を増やす取り組みとして、学生さん1人1人のキャリアプラン実現に向けた提案や情報発信を積極的に行っていきたいと思っております。

鳥取県臨床研修セミナーを開催しました

昨年度に引き続きWEBでの開催とはなりましたが、令和4年11月18日(金)と令和5年3月3日(金)の全2回、鳥取県臨床研修セミナーを開催しました。

第1回は鳥取大学医学部周産期・小児医学分野助教 美野陽一先生を講師にお招きし「虐待かも?と思ったら

～CHILD FIRSTで取り組む虐待防止～」と題してマルトリートメントの概念や、院内における実際の活動についてのご講演を、また、第2回は本院がんセンター特任教授 安部 睦美先生を講師にお招きし「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)を理解しよう～厳しい状況の患者さんをどう支えますか?～」と題してACPについてご講演をいただきました。

両日とも研修修了に必要な必須項目に関連した内容となっており、参加者からは「小児科(必修科)をローテートする前にマルトリートメントについて学ぶことができよかった。」「患者さんの想いを引き出せる信頼関係、またそれに対してきちんと応えられる知識や技術が身につけられるよう日々精進したいと感じた。」等の感想が寄せられました。

臨床研修の外部評価を受審しました

受審証をサーベイヤーから受け取る
原田病院長

2月8日(水)に、NPO法人卒後臨床研修評価機構(JCEP)による臨床研修の外部評価を受審しました。「病院機能評価」と同じように、客観的視点に立ってより良い医師育成ができるよう、対面式面接や指導医、研修医のインタビューのほか、院内を実際に見て回り改善ポイントを指導していただくものです。

当日は3名のサーベイヤーをお迎えし、病院長以下、多くの職種の臨床研修に関わる皆さんにご対応いただきました。ありがとうございました。

講評では、プログラム上のご指摘もありましたが、病院全体で研修医を育成しようとする意気込みが伝わってきました、とお褒めの言葉を頂きました。

卒後臨床研修センターとしても、今回の受審を活かしてより良い臨床研修が提供できるよう、検討、改善を図っていきたいと思います。

令和４年度

臨床研修修了式を挙行しました

空の青さに桜のつぼみの色が映え、春めいてきた3月24日、令和4年度の臨床研修修了式を挙行いたしました。

医科の14名と歯科の2名、併せて16名が法定の臨床研修を修了し、病院長より臨床研修修了証が授与されました。

この日は併せて優秀指導医賞とベストレジデント賞の授賞式があり、栄えある賞に輝いた指導医9名の中から4名の先生方が出席され、ベストレジデント3名とともに表彰に臨まれました。

研修医の進路は引き続き専攻医として大学病院に残る人、大学病院の専攻医プログラムにエントリーをして、近隣病院に勤務となる人、大学を離れる人、と様々ですが、これからの彼らの医師・歯科医師としての人生が実り多いものとなるよう祈念しております。

ベスト
レジデント賞
Best resident

（左から）保手浜裕之 研修医、梅木真奈 研修医、宮石昌典 研修医

優秀
指導医賞

授賞式当日にご出席いただいた先生方です。
（左から）花木武彦 先生、永原天和 先生、美野陽一 先生、佐藤慎也 先生

令和4年度
優秀指導医賞受賞者

第二内科	永原　天和　先生	第一外科	宍戸　裕二　先生
小児科	坂田　晋史　先生	第一外科	木原　恭一　先生
小児科	美野　陽一　先生	女性診療科	佐藤　慎也　先生
第一外科	花木　武彦　先生	救急科	生越　智文　先生
		脳神経外科	坂本　誠　先生

■ 外科専門プログラム修了

梅木 真奈

研修医2年目の梅木真奈と申します。この度はこのような身に余る賞をいただき、心より嬉しく思います。指導医の先生をはじめとして各診療科の先生方、医療スタッフ、卒後臨床研修センター、研修医同期、その他お世話になった皆様に大変感謝しております。

私は6年次から呼吸器外科への入局を考えておりましたので、外科専門プログラムを選択しました。大学病院で外科を中心に研修しながら、鳥取県立中央病院で8か月、奈義ファミリークリニックで1カ月とフレキシブルに研修させていただき、多くの貴重な経験を積むことができました。

正直に話すと、2年間の研修すべてに全力投球できていたわけではありません。初めの頃は頑張れば頑張るほど、上手くいかなかった時の失望感や無力感が大きく、それなりに研修医生活をこなそうと考えてしまったこともありました。しかし、今の自分の不勉強が将来の患者さんの不利益になると考え、周りの先生方の背中をみながら少しずつ医師として成長することができました。

2年間多くの方々に支えられて、地元の鳥取で医師としての第一歩を踏み出すことができ、本当に幸せでした。これからも謙虚に学び続ける姿勢をもって精進していきたいと思います。本当に2年間ありがとうございました。

ベストレジデント賞《 受賞の言葉 》

■ 関西たすきがけプログラム修了

保手浜 裕之

初期研修医2年目の保手浜裕之と申します。この度はこのような栄えある賞を頂戴し、大変嬉しく思っております。私は本院の関西たすきがけプログラムを選択し、1年目は北野病院で、2年目は鳥取大学医学部附属病院で研修を行いました。

1年目は、主に初期研修で必修とされる診療科をローテートしました。北野病院は大阪市中心部の病院ということもあり、さまざまな症例や、患者さんとのやりとりを経験することができました。

2年目に本院へ戻ってきてからは、1年目の研修を踏まえ、自身の興味や、将来の進路などを考えて選択科研修を行いました。大学病院は市中病院と比べて、複雑な疾患や希少疾患を経験することが多く、日々の診療に苦慮することが多かったのですが、指導医の先生は私のアセスメントに対して丁寧にフィードバックしてくださいました。

また、私は1年目・2年目ともに良い同期に恵まれました。同期はみんな真面目で優しい方ばかりで、経験した疾患について教え合ったり、時には研修医室で愚痴をこぼしたり励ましあったりと、毎日刺激的な研修生活を送ることができました。

4月からは本院の放射線科に入局します。この2年間で培った知識や経験を基礎として、更なるレベルアップを目指して、日々是精進の精神で努めていく所存です。

最後になりましたが、この2年間に関わっていただいた指導医の先生方、医療スタッフの皆様方、卒後臨床研修センターの皆様方にこの場を借りてお礼申し上げます。

■ 自由選択プログラム修了

宮石 昌典

研修医2年目の宮石昌典と申します。この度はこのような素晴らしい賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。今までご指導いただいた各診療科の先生方や、卒後臨床研修センターをはじめ、関係してくださった方々のお力添えあっての今の自分と考え感謝の念に尽きません。

私の初期研修は自由選択プログラムで大学病院中心の研修でした。1年目は必修科とされる診療科を中心に研修を行い、各診療科の基本となる知識や手技だけでなく、希少な症例も経験することができました。また、プレゼンや学会発表の準備を日々の診療で忙しいなかでもお力添えしてくださった先生方には大変感謝しております。

2年目では自分の学んだことや大学病院との違いを肌で感じるべく市中病院での研修も行いました。失敗や後悔することも多くありましたが、その失敗を糧に次こそはという思いで毎日を過ごし、充実した日々を過ごすことができました。

最後になりますが、このような賞をいただけたことを感謝するとともに今後も引き続き真摯に診療に臨みたいと思います。各診療科の先生方、医療スタッフの方々、ならびに卒後臨床研修センターの方々にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

活躍！先輩ドクター Dr! 【第５回】

小児科　山﨑 隼太郎 医師

こんにちは。小児科の山﨑と申します。
卒後10年目で小児循環器領域を専門にしております。私は山陰たすきがけで一年目を松江赤十字病院、二年目は鳥取大学で研修しました。

小児科に入局したのは二年目の12月で、同期の中では入局を決めたのがかなり遅かったです（現在は制度が変わってもっと早くに進路を決めないといけないようですね）。

もともと小児科に興味はありましたが、漠然と成人を診療する機会を失うことに対する不安があったことと、実際に研修した呼吸器内科や循環器内科、消化器内科など主に内科系の科になりますが、それぞれ魅力的な研修内容で熱心に指導頂いたこともあってギリギリまで悩みました。

結局最後まで小児科と悩んだのが循環器内科だったのは現在小児循環器領域を専門としている理由の一つになっていると思います。

小児科医になって成人を診療する機会はめっきりありませんし、成人科の先生のように難しい治療を行うことはできませんが、小児も成人も同じ人間であると開き直って、最低限医療者としての対応はできるよう心がけています。研修医時代は小児科医になっても成人が全く診られない医師にはならないようにと意識しながら救急外来での対応など勉強した記憶があります。

また小児科も結局症状を伝えてくれるのはご両親の場合が多いので、問診時の対応や患者さんとのコミュニケーション能力は研修医時代に様々な科の先生の診療風景を勉強させていただいたことから身についたものだと感じます。

研修医の先生方は方向性が定まった人もいればそうでない人もいると思います。研修する科によってモチベーションも様々かと思いますが、各診療科の先生から得られるものは多いと思うので引き続き学びの多い研修を過ごしてください。

vol.3 GoZZo ~~サシ~~でメシっ！ 推し

今回、職員食堂での取材に協力してくれたのは、歯科研修医の二人。ご注文は、口をそろえて「上代（かみだい）で。」とのこと。「上代」というのは、本院の近隣にある蕎麦屋さんで、「ミシュランビブグルマン」にも掲載されている名店なのです。そのお店の蕎麦が職員食堂で食べられるなんて！迷わずコレというのも納得です。

ひとまず写真を撮らせていただき、黙食…蕎麦はつるつる、とり天はサクサク。月に数日しか提供されない数量限定メニューで、早くに行かないと売り切れてしまいます。二人とも1年近く勤務していてもなかなか出会えない1品だったそうで、とても満足しておられました。

上代（かみだい）田舎ざるそば&ミニ丼セット（塩ダレの鶏天丼）

鳥取大学には歯学部がなく、研修歯科医は、全員が他大学出身者です。そこでなぜ本院での研修を選ばれたのか、食事後に伺ってみました。

阪本　「鳥取県出身なので地元でとなると、歯科の臨床研修をやっているのがここしかないのもありますが、歯科口腔外科を1年間通して経験できるのが魅力でした」

平田　「他県出身ですが、祖父が鳥取県の人なので、縁を感じてやってきました。方言が祖父のと同じで懐かしく感じます。」

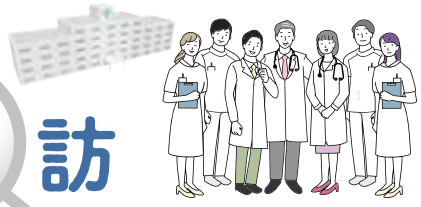
二人とも、勤務してみて感じたことは、他科の術前口腔ケアの依頼が多く、全身疾患についても身をもって学べたことが新鮮だったそうです。そんな毎日で、やりがいを感じることについても聞いてみました。

阪本　「抜歯を一人でひと通りできたときに達成感を感じます」

平田　「自分でとった印象（歯型）を技工士さんに見せて、一発OKをもらった時がうれしいです」

上代の蕎麦を食べられたことも含め、日々のやりがいや小さな喜びの積み重ねが、人を成長させる糧になるんだろうな、と改めて感じました。

医局探訪



耳鼻咽喉科・頭頸部外科

矢間　敬章

耳鼻咽喉科頭頸部外科は米子医学専門学校時代に始まり、創立75周年を迎えた鳥取大学医学部とともに歴史を重ね、現在第6代藤原和典教授以下15名の医局員で診療を行なっています。当診療科は聴覚・平衡覚・嗅覚・音声・咀嚼嚥下・気道といったQOLに直結する機能を取り扱い、老若男女問わず診療する科で、いわば“頸から上の何でも屋“です。そのため様々な専門領域がありますが、教室員がそれぞれの担当した分野においてレベルアップし、サブスペシャリティーの専門医を積極的に取得した上で、専門性の高い医療の提供を行っています。

当科の医師が取得している専門医・認定医の資格は数多くあり、認定施設としては、アレルギー専門医教育研修施設、日本睡眠学会専門医療機関（A型）、日本内分泌外科学会認定施設、日本頭頸部癌指定研修施設、耳鼻咽喉科・頭頸部外科におけるロボット支援手術実施施設、日本気管食道科学会研修施設、鼻科手術認定研修施設、甲状腺内視鏡手術認定施設、喉頭形成手術認定施設など多岐にわたります。これにより頭頸部癌手術、嚥下手術、音声手術、頭蓋底手術、人工内耳手術など、施行できる施設が少ない高度な治療を提供できることが当科の特徴と考えています。ゆえに、基本領域である日本耳鼻咽喉科頭頸部外科の専門医を取得した上で、サブスペシャリティーとして様々な専門医や認定医を、当院のみの研修で取得することが可能となっています。また、今後も多くの若手医師に専門医となるための研修を行うことが可能となり、次の世代を脈々と養成できる体制をとっています。

当科の医局員の平均年齢は非常に若いですが、診療の独り立ちは非常に早く、専門医取得前でも沢山の執刀経験が可能になっています。また医局内の明るい雰囲気が医学生にも評判で、選択制クリニカルクラークシップでは毎年希望者が絶えず、第1・第2希望に書かないと選ばれない医局と言われています。

そんな若い人たちのパワーを原動力に、日本全国・世界レベルの診療・研究を実践・発信している当科で、一緒に働いてみませんか?

行事予定　令和５年度前半

4月　3日(月)	鳥取大学医学部附属病院医療系職員オリエンテーション(WEB)
4月　4日(火)	研修医プレローテーション開始
4月　8日(土)	鳥大JMECC(医科１年目研修医)
4月 12日(水)	研修科での研修開始予定(１年目研修医)
8月　3日(木)	令和５年度 研修歯科医採用 第1回試験
8月 10日(木)	令和５年度 研修歯科医採用 第2回試験
8月 22日(火)	令和５年度 研修医採用 第１回試験
8月 24日(木)	令和５年度 研修歯科医採用 第3回試験
9月	第５回 結紮王 !! ～縫合結紮コンテスト～ ※感染症流行状況による
9月 13日(水)	令和５年度 研修医採用 第２回試験
9月 29日(金)	令和５年度 研修医採用 第３回試験
10月　初 旬	医 科 マ ッ チ ン グ 中 間 公 表

編集後記

最後まで読んでいただきありがとうございました。

早いもので今年度も終わりとなりました。各イベントやセンターだより発行にご協力いただいた方々、本当にありがとうございました。次年度も心新たに頑張っていきますので宜しくお願い致します。

この研修センターだよりは当院で研修を修了した先生方にも配布しています。勤務先や住所が変更になった場合は下記の連絡先までご一報ください。

（矢田貝　菜津子）

鳥取大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター

〒683-8504　鳥取県米子市西町36-1
TEL 0859-38-7025　FAX 0859-38-6974
E-mail　jimsotsugo@ml.adm.tottori-u.ac.jp

この紙面からの無断転載・複写・引用などを禁じます。